

# 優良農地の確保に向けた農地利用最適化の推進

農委会名：南小国町農業委員会

## 1 地域の概要

本町における農業は、農地488haと3,430haに及ぶ町入会採草放牧地の利用によってなされているが、山間地のため耕地区画は狭く、補助事業及び町単独事業等で基盤整備事業を実施しているが、ほ場整備率は10.6%と低い。

水稻、野菜、畜産を基幹作物に椎茸、花卉も栽培されている。野菜は準高冷地のため夏秋主体であり胡瓜、ほうれん草、大根は小国郷併せて九州の主産地として知られている。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 10人（うち、認定4人、女性1人）
- (2) 推進委員数 7人（うち、認定2人）
- (3) 事務局体制 4人（兼任）

## 3 掲げた目標

- 町内全農地6,709筆の内、優良農地と思われる2,506筆（37.3%）の利用状況及び利用意向の見える化（継続）。

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

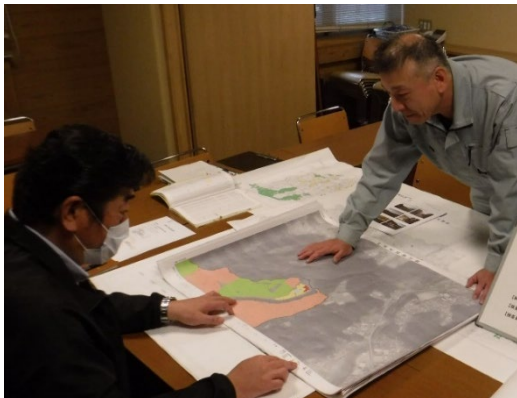
平成29年度より定期的に行っている農地利用最適化推進会議での情報と、町内の優良農地を所有する572世帯を対象に実施したアンケート調査結果をもとに、関係機関（阿蘇地域振興局農林部、熊本県農業会議、熊本県農業公社、JA阿蘇小国郷中央支所園芸課）と連携し農地集積推進会議を実施した。

また、南小国町の現状について町長との意見交換会も実施した。



## 5 取り組みの成果

平成30年度に設定した調査対象筆全ての調査を終了し、調査結果のグラフ化、地図化が完了した。



## 6 課題と今後の方針等

アンケートの回収率は7割と一定の成果は上がったものの、未回収分や誤認回答等を考慮すると依然として正確な実態把握とは言えない。

今後は調査結果を基礎資料とし、人・農地プランの実質化や中山間地域等直接支払制度の集落戦略と並行しながら、集落単位の農地集積及び農地利用の最適化へ向けた情報を集約し、地域課題を見える化する活動を実施していく。